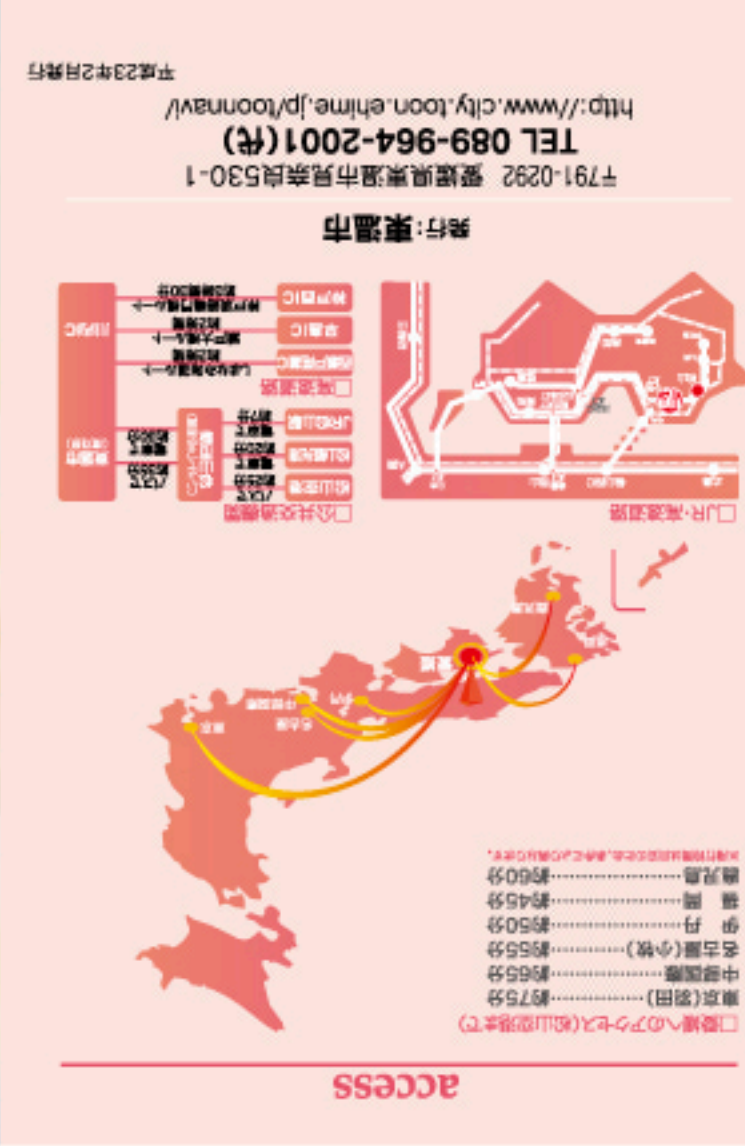




東温市の花 桜
このツツを
利用して、
桜の季節を自分
満喫してください



東温市
とんあんし
四国・愛媛



東温市文化財として
天然記念物に指定されている
3ヶ所の桜をご紹介します。



久尾
エドヒガン
ザクラ

マップ 24 E-8

木の高さ16m、目通り3mとサクラの木では市内一の巨木。血ヶ嶽連峰県立自然公園雄ヶ森の登山道のそば、久尾の耕地の尽きた所にある。このサクラは、「孝子桜」「孝太郎桜」あるいは「釣鐘桜」と呼ばれている。また、この花の咲き具合を見て、その年の豊凶を占ったとも言われている。前二つの名は共に人に関係したものであろうが、「釣鐘桜」とはおそらく花の花梗が長くて、花が下向きに垂れて咲くというこの花の形容から、そのように呼ばれたものと思われる。主幹は根本から2m余りも空洞状になっているが、その空洞の下からも、新梢を出し、また根を下ろすなどして、年毎に淡紅色の美しい花を咲かせている。

駐車場・トイレなし
道幅が狭いので注意



大通庵
エドヒガン
ザクラ

マップ 31 F-8

大通庵は、井内蔵元にある戒能氏一族の庵で、サクラは墓地の一隅、高い石垣の端にある。この種のサクラは、一般にウバヒガン・アズマヒガンとも呼ばれている。樹勢が強く、わが国の天然記念物に指定されているサクラのほとんどがこの種のものである。この木は、高さ12m、目通り1.5mで、春は他のサクラに先駆けて、淡紅色の花を開く。高台にあるので満開の頃にはその美しい花を遠くからも見ることができる。サクラの木は一族のだれが植えたのであろうか、今はそれを知る人もいない。ウバヒガンとは、葉がないのに花が咲く、歯が無いということと埃ヒガン、またこのサクラの特長として太い幹からも直接小枝を出すことから、子育て、つまり乳母ヒガンと呼ぶようになったという。エドヒガン(江戸)、アズマヒガンとは関東地方に多くあったのでつけられた名前である。

駐車場・トイレなし



源太
ザクラ

マップ 44 I-5

桜並木で知られる桜三里に残る最も古い桜。この地は、地盤が弱く崩壊しやすい土地であった。それを防ぐ目的もあり、貞享4年(1687年)に、松山藩士矢野五郎右衛門が中山川沿いにサクラを植える。このサクラの植え付けには、松山藩の囚人が使われた。その労働は辛いばかりでなく、だれ云うともなく五郎右衛門の通称源太の名前をとって「桜三里は源太が仕置き、花は咲くとも実はなるな」とうたったと言い伝えられている。この事から樹齢推定300年を超すと思われるこのサクラ2本に源太桜の名をつけた。樹種はエドヒガンザクラで、春は他のサクラに先がけて開花する。春から秋、葉のあるつちは葉を見てサクラとわかるが、落葉すると他の樹種と混同されやすい。木は河之内にある県営発電所の対岸、旧金屋羅街道沿いの杉木立の中に、約100mの距離を置いて現存している。目通り2.88mと2.15m、高さは両方とも17mで樹勢のよいサクラである。

駐車場(土谷集会所)から徒歩約40分
トイレあり(土谷集会所)
源太桜まつり 4月上旬

